

船舶インシデント調査報告書

平成28年6月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（燃料供給不能）
発生日時	平成28年2月26日 14時00分ごろ
発生場所	静岡県南伊豆町石廊崎西南西方沖 石廊崎灯台から真方位241° 2.0海里付近 （概位 北緯34° 35.2′ 東経138° 48.6′）
インシデントの概要	プレジャーボートHIMEは、北進中、主機の運転ができなくなって運航不能となった。
インシデント調査の経過	平成28年2月29日、調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート HIME、5トン未満（長さ7.45m）
船舶番号、船舶所有者等	230-20479静岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	全損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 5、視界 良好 海象：波高 約2.0m
インシデントの経過	<p>本船は、船長ほか1人が乗り組み、静岡県西伊豆町所在のマリーナに向けて石廊崎西南西方沖を北進中、突然、主機が停止した。</p> <p>船長は、自力航行不能と判断して錨泊し、海上保安庁に救助を要請した後、機関室に入って、主機の燃料フィルタを確認したところ、水が約半分たまっていたので、水を抜いて主機の始動を試みたものの始動させることができなかった。</p> <p>船長ほか1人は、来援した海上保安庁のヘリコプターによって救助された。</p> <p>本船は、アンカーロープが破断して海岸に漂着し、大破したので廃棄処分された。</p> <p>主機は4サイクル4シリンダのディーゼル機関であり、燃料油として軽油を使用していた。</p> <p>船長は、約4年間使用されていない本船を中古で購入し、約100ℓの古い燃料油が入っていた燃料油タンク（容量約200ℓ）に約80ℓを補油後、燃料フィルタから水抜き作業を実施したが、水分が抜けたことの確認をせずに本航海に出発した。</p> <p>船長は、販売業者から燃料フィルタの水抜きを定期的に行うよう助言を受けていた。</p>
分析	本船は、水分が混入した燃料油が主機に供給されたことから、主機

	<p>が停止し、運航不能となったものと考えられる。</p> <p>燃料油フィルタの水抜きが完全に実施されなかったことから、主機に水分が混入した燃料油が供給されたものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、水分が混入した燃料油が主機に供給されたため、主機が停止し運転できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>